

ライフコーディネート科での授業が 新聞に掲載されました

豊田市鶴ヶ瀬町の松平高校でライフコーディネート科ヒューマンサポートコース1期生となる3年生の女子生徒11人が、イタリア語で「小さなオペラ」を意味するオペレッタの練習に励んでい

る。外部講師の指導を受けながら、志す保育の世界で大切な表現力を磨く。来年2月には、自分たちで創作したオペレッタを同科初の卒業制作として発表する予定という。(小野開栄)

保育の力 育むオペレッタ

松平高 感情表現が鍵 卒業制作へ練習



授業の一環で十一人は今月十九日、校内の特別教室でオペレッタ「とんがり山の大魔神」を演じた。魔神に連れ去られたヘリカン王国のお姫さまを助け出す筋書きに沿い、手作りの小道具を持って音楽に合わせ踊り、声を張り上げた。

新新型コロナウイルス感染症拡大に伴

う学校の影響を受け、授業では十時限ほどしか練習できなかった。だが、佐々木愛乃教諭は「みんな頑張ってくれた」と演技をたたえた。

松平高は二〇一八年度から岡崎女子大・短期大学と高大連携協定を結ぶ。十九日は、同短大幼児教育学科の滝沢ほかが准教授が演技指導で立ち合い、体や手の動き、目線の向きなどを助言した。滝沢准教授は「保育の現場では先生が率先して体を動かす、感情を表現することで、子どもたちの表現を引き出すことが大事」とオペレッタと保育のつながりを力説する。佐々木教諭も「動言通りに演技の質を高めていってほしい」と期待する。

卒業制作のオペレッタは、これから生徒自らが台本を考える。同校の体育館に生徒や保護者を顧客として迎え、近隣から幼児を招待する構想もある。

鳥越結愛さん(も)は「これまでは、せりふがない時の動作や、台本にない人物像の掘り下げを教わった。今後は子どもにも感情が伝わるよう、役を深いところまで演じたい」と話す。木下愛也さん(こ)は「三年間の集大成として、歌や踊りを一月までにしっかり仕上げたい」と意気込んだ。

中日新聞 豊田版
6月26日掲載

松平高 保育士の卵へ出前授業

豊田市鶴ヶ瀬町の松平高校(生徒450人、加藤英樹校長)のライフコーディネート科3年ヒューマンサポートコース(保育講座)の11人が19日、高大連携事業提携を結ぶ岡崎女子短期大の滝沢ほかが准教授から表現総合劇(オペレッタ)の指導を受けた。

保育士を目指す生徒らは臨時休校明けから10回ほどの練習を重ね「とんがり山の大魔神」を披露した。全員オペレッタは初めてという生徒らに滝沢准教授は「全身を使って大きく動くと子どもたちも真似をする」「セリフがない時の動きや音楽の力」「踊りや歌で子どもたちをひきつけて」などアドバイスし、「豊かな表現力を身に着けた保育士になれると思う。よい表現につながってほしい」と伝えた。

同校は2018年度の新生から生活情報科に変わりライフコーディネート科が始まった。ライフコーディネート科は「衣・食・住」や「保育」の学習の深化、会計処理能力と情報処理能力を養うヒューマンサービスにおける汎用的な能力を体得する3つの目標に向かい、1年で全員がピアノ実習、2年でヒューマンサポート、ライフマネジ

メンタコースに分かれて専門的な学習に取り組む。3年は多様な進路目標に対応した選択科目を学ぶ。昨年度まで生活情報科を使った発表とファッションショーなどを行ってきた。今年初めてとなるライフコーディネート科の発表会ではファッションショーに変わり、保育士を目指すヒューマンサポートコースがオペレッタを上演する。生徒らは保育士として大切な表現力を磨き、発表会で大作に臨む。

【岡田】

総合劇で表現力養って



〈上〉オペレッタを披露 〈下〉滝沢准教授の話に聞き入る生徒ら=19日、豊田・鶴ヶ瀬町で

新三河タイムス
6月25日掲載